
フレッシュプリキュア！～ゲットマウスの逆襲！煌めきのプリキュア・キュアメロン！！

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フレッシュ・プリキュア！～ゲットマウスの逆襲！煌めきのプリキュア・キュア・メロン！！

【ISBN】

N2025V

【作者名】

ユーリ

【あらすじ】

『フレッシュ・プリキュア！』のその後の話。『ゲットマウス』のボス・ゴードンが、ラビリンスの科学者と組んでプリキュア達に復讐を謀る！絶対絶命の危機に現れたのは、あの人だった・・・新しいプリキュア、登場！！

前編・「コードンの復讐計画

皆は覚えているだろ？

フレッシュ・ブリキュア29話に登場した悪の組織『ゲットマウス』を。

そのボスである「コードン」が、再び動き出そうとしていた・・・

ラビリンス

南瞬

「大変だ、隼人！！」

西隼人

「どうした瞬、そんなに慌てて・・・」

瞬

「ラビリンスの地下金庫に厳重に保管されていた3つの物が、盗まれたんだ！！」

隼人

「何！？ブロンズナケワメーカー、シルバーナキサケーベ、ゴールドソレワターセの3つがか！？」

瞬

「ああ・・・」丁寧に置き手紙まで置いてあったよ。あの3つを盗

み出したのは・・・『Dr・スカル・ボーンズ』だつてね。』

隼人

「スカル・ボーンズ・・・ラビリンスキッテの科学者で、その余りののめり込み振りからマッドサイエンティストと呼ばれた、ヤツか・・・確かにヤツは随分前にラビリンスを去ったハズだが?」

瞬

「『自分のやりたい事が見つかった』と言つて、ラビリンスを離れていたつけ・・・何か目的があつて戻つて来たんだろうか?」

隼人

「わからん・・・そういうえば、せつなはどう行つた?」

瞬

「せつななら、学校の修学旅行で行つてるよ。」

隼人

「そつか・・・なぜか、イヤな予感がする・・・」

ゴードン『ゲットマウス ボス』

「クソ・・・ポセイドンの冷や汗を手中に收められなかつたばかりか、執事もクビにされてしまつた・・・それもこれも、あのプリキニアとかいう4人組のせいだ!!」

「おや、困つてらつしゃるようですね。」

「ゴードンの前に、初老の男が現れた。

「ゴードン

「アンタ、誰だ？」

Dr・スカル・ボーンズ『ラビリンスの科学者』

「私はDr・スカル・ボーンズ・・・あなたと同じく、プリキュアに恨みを抱く者ですよ・・・」

「ゴードン

「アンタもプリキュアに恨みがあるのか？」

スカル

「ええ。よろしければ、あなたに協力をしましょうか？」

「ゴードン

「助かるよ。プリキュアには恨みを晴らしたかつたからな。プリキュア共が集まる場所は知っている。橘薫が運営するドーナツ屋だ。」

スカル

「では、早速私の部下に偵察させましょ。行け、我が僕よ。」

スカルはカラスを召還し、偵察に行かせた。

蒼乃美希
あおの みき

「I-Iのドーナツはいつ食べても最高ね。」

山吹祈里
やまぶき いのり

「だね。ラブちゃんとせつなちゃん、楽しくやつてるかなあ？」

美希と祈里は談笑している。

すると、隼人と瞬がやってきた。

瞬

「美希、祈里！」

美希

「瞬！」

祈里

「隼人さんも…どうして…ここに…？」

瞬

「実はね…」

美希

「ラビリンスの金庫から3つの重要物が盗まれた？」

隼人

「ああ…銅のナケワメーカー、銀のナキサケーベ、そして金のソ

レワターセの3つがな。」

瞬

「盗んだヤツはラビリンスの科学者で、スカル・ボーンズという男なんだ。マッドサイエンティストで、その思想はかなり危険だ。」

隼人

「メビウスが倒されてラビリンスが生まれ変わったのをスカルは知らないからな。もしかしたら人間界に来てるかもと思つて来てみたんだ。」

瞬

「ラブとせつなは中学校の旅行かい？」

美希

「ええ、四つ葉中学校の。場所は沖縄だつて言つてたわ。」

隼人

「そうか・・・何事もなければ良いんだが・・・」

4人の会話を、遠くから1羽のカラスが聞いていた。

沖縄

ラブとせつなは、四つ葉中学校の修学旅行で沖縄に来ていた。

東せつな

「美味しいわ、このゴーヤチャンプル。」

桃園ラブ

「でしょ？良かつた。」

その後、2人はパイナップルやバナナを食べたり、沖縄の観光名所を回つて過ごした。

そして、その夜・・・

ラブ

「せつな、明日はどこ回る？」

せつな

「そうね・・・水族館行つて、それから植物園を回りたいかな。」

ラブ

「じゃ、それでいこ！」

ラブとせつなが部屋の外から、カラスが見ていた。

ゴードン

「なるほど、水族館に行ってから植物園か・・・」

スカル

「ならば、植物園にあなたの部下達を行かせましょう。そこで待ち伏せるのです。」

ゴードン

「よし、わかつた。」

翌日

水族館

せつな

「大きいエイね。」

ラブ

「一番大きな種類はオーライトマキエイと言つて、通称『マンタ』って呼ばれてるんだよ！」

せつな

「へー。」

植物園

せつな

「珍しい植物が一杯ね。」

ラブ

「でもおかしいなあ。」

せつな

「何が？」

ラブ

「大輔の話じや、この植物園いつもはもっと人がいるらしくんだよ。でも今日はなぜか私達しかいないでしょ？」

せつな

「確かに変ね・・・。！？」

ラブ

「どうしたの、せつな？」

せつな

「・・・誰か、いる・・・」

次の瞬間、ラブとせつなの周りに黒服の男達が現れた。

ザツ！

ラブ

「な、何なのこの人達・・・」

せつな

「ラブ、じつち！」

せつなはラブを引っ張り、奥へと走り出した。

黒服の男達も、彼女達を追つて行く。

ラブ・せつな

「ハアハア・・・」

ラブとせつなは必死に逃げていたが、やがて植物園最奥部に追い詰められた。

ラブ

「行き止まりだよ！」

せつな

「仕方ないわ、こうなつたら変身して突破を・・・」

そう言った次の瞬間、ラブとせつなは男達に後ろから羽交い締めにされた。

ガシッ！

ラブ・せつな

「キヤツ！？」

そして、後ろからハンカチで口を塞がれる。

ガバッ！

ラブ・せつな

「んぐつ！？」

2人はしばらくもがいたが、徐々に目がトロンとしてきた。

ラブ・せつな

「うう・・・」

そしてとうとう、ラブとせつなは意識を失った。

中編・誕生！煌めきのブリキュア！！

せつな
「う～ん……」

せつなはせつなすりと目を開けた。

せつな
「二二二は・・・?あ、ラブー!ラブー!…」
「…」

せつなはラブに話しかけた。

ラブ
「う・・・あ、せつな！」

せつな
「良かつた、目が覚めたのね。」

ラブ

「頭が痛い・・・せつな、二二二?…」

せつな

「わからないわ。でも、確かな事が一つあるわ。私達、誘拐されたみたいだね……手足と体を縛られてるし……」
みたいね。」

ラブ

「みたいだね……手足と体を縛られてるし……」

ラブとせつなは、手足と体を縄で縛られていた。

「目が覚めたか？」

ラブ・せつな
「？」

ラブとせつなが振り向くと、そこには見知った男が立っていた。

ラブ
「あ、あなたは・・・ゴードンーー。」

ゴードン
「覚えていたか。」

せつな

「あなた、何のつもりで私達を誘拐したの？」

ゴードン

「ククク、教えてやる。私はこの男と組んだのだよ。」

ゴードンの後ろから、白衣を着た男が現れた。

せつな

「あなた・・・スカル・ボーンズ！？」

スカル

「これはこれはイース様。私如きを覚えてくださつてゐとは光榮です。」

ラブ

「せつな、誰なのこの人？」

せつな

「この人はスカル・ボーンズといつて、ラビリンスの科学者なの。あまりの入れ込みように、ラビリンスではマッドサイエンティストと呼ばれていたわ。でも彼は随分前にラビリンスを去ったハズだけど……」

スカル

「ついこないだ戻って来たのですよ。そして、メビウス様がプリキュアに倒された事を知った。私はプリキュアに恨みを晴らすため、同じく恨みを持つゴーデン様に協力を申し出たのですよ。しかしさかイース様がプリキュアだつたとはね。」

せつな

「私達をどうするつもり？」

スカル

「あなた方は人質です。他のプリキュアを呼び出すためのね。さて、あなた方には静かにしていてもらいましょうか。」

スカルはそう言つとガムテープを取り出し、ラブとせつなの口に貼つた。

ペタッ！

ラブ・せつな

「ん~！」

それからしばらくして、美希の携帯に電話がはいった。

美希

「ラブから？もしもし、ラブ？」

スカル

「初めまして、お嬢さん。」

美希

「あなた誰？どうしてラブの携帯を！？」

スカル

「ククク、それは・・・私がラブさんとせつなさんを預かっているからですよ。」

美希

「な、何ですって！？2人は無事なの！？」

スカル

「ええ、今はね・・・さて、こちらからの指示です。この2人を助けたくば、明日沖縄にある海岸に来なさい。無論、あなたの仲間達も連れて来て良いですよ。」

美希

「ラブ達に何かしたら許さないから。」

スカル

「わかつていますよ。では。」

瞬

「電話、誰からだ？」

美希

「妙な男からよ。ラブとせつなを誘拐したって……」

祈里

「ラブちゃんとせつなちゃんが！？」

隼人

「クソッ、遅かったか・・・ソイツは多分、スカルだ・・・」

美希

「ラブ達を助けなきや・・・」

「今のは、聞かせてもらつたわ。」

美希

「ハ、ミコキさんー？」

知念ミコキ

「ラブちゃん達は私の大切な生徒。私も一緒に行くわ。」

美希

「ラブ、せつな！待つててね！－」

翌日 沖縄の海岸

美希達は指定された海岸にやつて來た。

「來たようですね。」

美希

「！！」

美希達の前に、1人の男が現れた。

美希

「あなたがスカル・ボーンズね？」

スカル

「そうですよ。そして、この方もいましてね。」

スカルの後ろから、ゴードンが出て來た。

美希

「ゴ、ゴードン！？」

ゴードン

「久しぶりだな、プリキュア。」

祈里

「ラブちゃん達はどうなの？」

スカル

「ククク・・・あそこですよ。」

スカルが指差した方向に、ラブとせつながいた。

2人は檻に閉じ込められ、巨大な金色の植物に捕まっている。

ラブ・せつな

「みんな！」

美希

「あの植物は・・・？」

スカル

「ゴールドソレワターセですよ。そしてブロンズナケワメーク、シリバーナキサケーベもいましてね。さあ、オマエ達！彼女達を可愛いってあげなさい！！」

美希

「ナメないでよね！ブツキー、いくわよ！！」

祈里

「うん！！！」

美希・祈里

「チエインジ・プリキュア！ビートアップ！！」

美希

「ブルーのハートは希望の印！摘みたてフレッシュ・キュアベリー

「！」

祈里

「イエローハートは祈りの印！とれたてフレッシュ・キュアパイン
！」

隼人・瞬

「スイッチ・オーバー！！」

ゴードン

「かかれえ！！」

ナケワメークとナキサケーベ、そしてゴードンが従えるゲットマウスの構成員達が、一斉に向かつて来た。

ベリーとパインは怪物を、隼人と瞬は構成員達を相手にする。

だが構成員達はかなり強く、ナケワメークとナキサケーベも今までの怪物より格段に強かつた。

4人は次第に追い詰められていく。

美希・祈里・隼人・瞬

「ハアハア、ハアハア・・・」

スカル

「こんなものですか。伝説の戦士プリキュアも、大した事ありませんね。」

美希

「へう・・・」

スカル

「そろそろ終わらにしましょうか・・・」

ミコキ

「待ちなさいーーー！」

スカル

「ん？」

ミコキが美希達の前に出てきた。

ミコキ

「あなた達、随分と卑怯なのね。」

ゴードン

「何とでも言いな。オレはプリキュアに恨みを晴らすためなら何だつてやる。」

スカル

「そこを退きなさい。そもそもあなたもケガしますよ？」

ミコキ

「そりはいかないわ。ラブちゃん達は私の大切な教え子・・・守るべき子達・・・心の煌めきだけは、消させない！！」

ミコキがそう叫んだ時、ミコキの眼前に緑色のピックルンが現れた。

ミコキ

「え？」

美希

「ピックルン！？」

祈里

「まさか、ミコキさん・・・」

タルト

「やるんや、ミコキはん！？」

ミコキ

「ええ！？」

ミコキは携帯を取り出す。

すると、携帯の形が変わった。

ミコキ

「チヨインジ・プリキュア！ビートアップ！」

ミコキは緑色の光に包まれた。

髪が黄緑色に変わり、巨大なボニー・テールになる。

次の瞬間、ミコキは緑色の服に包まれた姿になっていた。

ミコキ

「グリーンハートは煌めきの印！輝けフレッシュ！キュアメロン！」

！

後編・炸裂！レインボーフレッシュ！－

メロン
「グリーンハートは煌めきの印…輝けフレッシュ！キュアメロン…！」

パイン
「まさかミコキさんもプリキュアだつたなんて…」

ベリー
「気のせいかしら？私達より露出度が高いよつな…」

そりゃそうだ、高校生なのだから。

スカル
「ほお、プリキュアになりましたか。ですが彼女達がいる限り、こ

ちらの優位は揺るがな…」

ダンッ！！

メロン
「ハアアアアアア…！」

ドゴォ…！

『「ア…？」』

メロンは一直線に突っ込んでいくと、ソレワターセを弾き飛ばしラブとせつなが閉じ込められている檻を破壊した。

バキイ！！

タシツ。

「助かりました、ミコキさん。」

せつな

ラ
ブ

二二二

「ラブ・せつな
・チューインジ・プリキュア！ビートアップ！！」

ラブとせつなは変身した。

二
チ

「パンクのハートは燃あぬ日一もぎたてフレッシュью・キュアピー・チ
ー...」

パッショーン

「レッドのハートは幸せの印！熟れたてフレッシュ！キュアパッセーンー！」

「フレッシュ！プリキュア！！」

「ゴーデン

「おのれえ！！」

「ゴーデンは冷静さを失い、構成員達を差し向けてた。

スカル

「いけません、ゴーデンー感情に身を任せては・・・」

冷静さを欠いたゴーデンが指示した構成員達など、ピーチ達には敵ではなかつた。

あつといつ間に、構成員達は全滅した。

「ゴーデン

「あ・・・あ・・・」

サウラー

「終わりだよ！！」

トスツ！

「ゴーデン

「うつ・・・」

サウラーが手刀でゴーデンを氣絶させた。

ウエスター

「さあ、後はオマエだけだスカル。觀念しろ。」

スカル

「フツ、ゴードンを倒しただけで勝つたつもりですか？3つの兵士がいる限り、私の有利は揺るがない！行け！！」

ナケワメーヶ、ナキサケーベ、ソレワターセが一斉に向かって来た。

メロン

「みんな、必殺技で対抗よ！…！」

ピーチ・ベリー・パイン・パッショń

「はい！…！」

ピーチ

「ピーチロッヂ…！」

ベリー

「ベリーソーデ…！」

パイン

「パインフルート…！」

パッショń

「パッショńハープ…！」

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン…・・・」

ベリー

「プリキュア・エスパワールシャワー…・・・」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプレア～・・・」

ピーチ・ベリー・パイン

「フレッシュ」

ピーチ・ベリー・パインの連携攻撃が、ナケワメーケを吹っ飛ばした。

パッショント

「プリキュア・ハピネスハリケーン！！」

パッショーンの攻撃が、ナキサケーベを吹き飛ばし地面に叩きつける。

メロン

「弾き歌え！ 燐めきのビー玉！！ メロソギター！！ ハーフニア・スリズムビートソニック！！」

メロンがギターを弾き鳴らし、ソレワターセを吹つ飛ばした。

スカル

「バカな！？コイツらは伝説の3兵だぞ！－まさかこんな小娘共に後れをとるといふのか？ならば、私も奥の手を出すまでだ・・・」

スカルは灰色と黒色のカプセルを取り出した。

スカル

「この薬は私の身体能力を何倍にも引き上げる効果を持つ。コイツを使って、3兵の能力を格段に上げてやれば良い！！」

スカルは薬を飲み込む。

ゴクン！

スカル

「来い！ナケワメーヶ、ナキサケーべ、ソレワターセ！！」

スカルは3兵と融合し、禍々しい怪物と化した。

ドォン！！

スカル

『さあ、かかるてこいプリキュア共！』

ピーチ

「なつ・・・」

パイン

「あんな大きいの、どうしたら良いの…？」

メロン

「大丈夫よ、みんなで力を合わせれば・・・」

タルト

「そや、クローバーボックスを使うんや…！」

ベリー

「クローバーボックスを？」

ピーチ

「わかつたわ…！」

ピーチ達は、スカルの方を向いた。

ピーチ

「クローバーボックスよ・・・私達に、力を貸して・・・」

ピーチ・ベリー・パイン・パッション・メロン・ウェスター・サウラー
「プリキュアフォーメーション！」

ピーチ

「レディ・ゴー！！」

ダンッ！！

サウラー

「サウスリーフ、セット！！ウェスター！！」

ブンッ！

パシッ！

ウェスター

「+1！ウェストリーフ！！メロン！！」

パシッ！

メロン

「+1！プリズムリーフ！！パッション！！」

パシッ！

パッシュヨン

「+1！ハピネスリー・フ！！パイン！！」

パシッ！

パイン

「+1！プレアーリー・フ！！ベリー！！」

パシッ！

ベリー

「+1！エスパワールリーフ！！ピーチ！！」

バシッ！！

ピーチ

「+1！ラブリーリーフ！！」

ヒュンヒュン！

ピーチ達が、それぞれの位置に降り立った。

巨大怪物を囲む。

ピーチ・ベリー・パイン・パッシュヨン・メロン・ウエスター・サウ

ラー
「ラッキークローバー・グランドフィナーレ！！レインボーフレ
ツシユ！！！」

バキン!!

スカル

『又オオア・・・私は、負けぬ・・・』

ピーチ・ベリー・パイン・パッション・メロン・ウェスター・サウラー

「ハアアアアアアアア!!」

『シユワ～シユワ～・・・』

パアアアアアア・・・

巨大怪物は浄化され、元の種に戻った。

スカル

「バカな・・・この私が・・・」

スカルは気絶した。

その後、ゴードンとゲットマウス一味は再び逮捕され、スカルはラビリンスの特別独房に投獄された。

ミユキは突然プリキュアになつた事に困惑していたが、ラブ達の力になれる事を喜び、彼女達の仲間になる事を決意した。

終わり

後編・炸裂！レインボーフレッシュユート（後書き）

桃園ラブノキュアピーチ：本作品の主人公で、プリキュア4人を中心的存在。公立四つ葉中学校の2年生。ピッグテール風の髪型が特徴。幼なじみの美希・祈里とは学校こそ違うものの、家族ぐるみのつき合いが続いている。忙しい母親に代わって小さい頃から家事を手伝っていたため料理が得意で、ハンバーグが十八番であり、好物でもある。一方でニンジンが苦手で、裁縫も下手。口癖は『幸せゲットだよー』。ピルンによつて最初に覚醒したプリキュア。ラブがトリニティのイベントでナケワメークに襲われ、その際ピルンについて『愛』の力に目覚め、キュアピーチへと変身する。モモをモチーフとしており、イメージカラーは桃色。登場の掛け声は『ピンクのハートは愛ある印！もぎたてフレッシュユ、キュアピーチ！』。髪の色はレモン色となり、長いツインテールの髪形となる。

蒼乃美希／キュアベリー・ラブと祈里の幼なじみ。芸能学校である私立鳥越学園中等部の2年生。腰まであるロングヘアが特徴。4人の中でも一番背が高い。ラブからは普段『美希さん』と呼ばれている。実家はヘア＆ネイルサロンを経営。両親は離婚しているため母親との2人暮らしだが、弟の和希とは別居してからも仲が良く、互いに会つて遊ぶことが多い。幼少時のトラウマからタコが苦手で、たこ焼き屋の看板を見ただけでも取り乱す。口癖は『アタシ完璧！』。ブルンによつて2番目に覚醒したプリキュア。美希が和希と共に遊びにかけた時にナケワメーカーに襲われ、その際ブルンによつて『希望』の力に目覚め変身する。ブルーベリーをモチーフとしており、イメージカラーは青色。登場の掛け声は『ブルーのハートは希望の印！つみたてフレッシュユ、キュアベリー！』。腹部の開いた露出度の高いコスチュームと、巻き髪を頭頂部より少し横で束ねた藤の花や葡萄の房を思わせる髪型、そして左腰に結ばれた長く青い帯のリ

ボンが特徴。

山吹祈里／キュアパイン・ラブと美希の幼なじみ。ミッショングスクールである私立白詰草女子学院中等部の2年生。肩まである髪の一部を右上で結んだサイドポニーの髪型をしている。ラブ達からは『ブツキー』と呼ばれている。自身のピックルンであるキルンを介す事で動物の言葉を理解出来る。3歳の時に噛まれたトラウマからフレットが苦手で、当初はタルトに近づくことさえ出来なかつたが、ある事件の後に克服し、彼とも親しくなつた。口癖は『私、信じてるー』。キルンによつて3番目に覚醒したプリキュア。祈里がタケシとラッシュキーとで川原で遊んでいたところをナケワメーカーに襲われ、その際キルンによつて『祈り』の力に目覚め変身する。パインアップルをモチーフとしており、イメージカラーは黄色。登場の掛け声は『イエローハートは祈りのしー!』とれたてフレッシュ、キュアパイン!。コスチュームは全体的に下ぶくれのデザイン。髪型は色が薄くなり、少しウェーブがかかる程度で、他のメンバーほど劇的に変わらない。

東せつな／キュアパッショーン・ラブの同居人である少女。髪型は黒髪のセミロング。好きな色は赤。ラブとほぼ同じ位の背丈である。元々はイースが一般人を装う際の仮の姿であったが、プリキュアとして転生した際にこちらが本来の姿となつた。ラビリンスから離反した後は桃園家に同居し、四つ葉中学校でラブと同じクラスに通う。桃園夫妻からは『せつちゃん』と呼ばれている。勉強やスポーツをそつなくこなし、遠くの物を正確に見られる視力など幅広い優秀さを持つが、ピーマンだけは苦手。また、ラブ達の世界の一般常識や流行については疎く、時折天然ボケともとれる言動もある。最終決戦後は元幹部達と共に、ラビリンスを幸せな世界にするため帰郷を決意し、ラブ達に1度別れを告げたが、学業を受けるために戻つて来た。口癖は『精一杯、頑張るわ!』。一度寿命を迎えたイースが、

アカルンの力で東せつなを本来の姿としたキュアパッシュョンとして転生し、『幸せ』の力で覚醒した4人目のプリキュア。パッシュョンフルーツをモチーフとしており、イメージカラーは赤色。登場の掛け声は『レッドのハートは幸せの印！熟れたてフレッシュ、キュアパッシュョン！』。髪の色は淡いピンク色となり、腰まで伸びるような長髪となる。赤と黒を基調とした配色で、タイツの着用など、コスチュームが他の3人とは大幅に異なる露出度の低いものとなつており、靴もハイヒールのショートブーツである。

知念ミユキ／キュアメロン・アイドルユニット『トリニティ』のリーダーで、現役高校生アイドルである少女。ナケワメーカーに襲われた際ラブに救われ、彼女や美希達にダンスを教える事になる。大輔の実姉。時折ラブ達に厳しい言動をすることも。一度タルトにプリキュアに勧誘されているが、ダンスとの両立を理由に断つていた。ラブ達の危機にて、自分が何もできない事を悲しみ、彼女達を助けていたという気持ちにかられピックルンを呼び寄せる。口癖は『心の煌めきだけは、消させない！』。ミドルンにより覚醒した、5人目のプリキュア。『ハートキヤツチプリキュア』のキュアムーンライトに次ぐ高校生プリキュアである。メロンをモチーフとしており、イメージカラーは緑色。登場の掛け声は『グリーンハートは煌めきの印！輝けフレッシュ、キュアメロン！』。髪は腰まで伸びた長髪になり、色も黄緑色に変わる。他の4人と比べるとやや大人っぽい姿であり、露出度も高い。

西隼人／ウエスター・ラビリンスの元幹部。明るい性格であり、ドーナツが好物。

南瞬／サウラー・ラビリンスの元幹部。インドア派でかなりの甘党。ゴードン・犯罪組織『ゲットマウス』のボス。かつてポセイドンの

冷や汗を盗もうとして失敗し執事もクビになつたためプリキュアを恨んでいる。

Dr・スカル・ボーンズ・ラビリンスの科学者。その入れ込みようからマッドサイエンティストと呼ばれた男。プリキュアに恨みを抱いており、ゴードンに協力を申し出る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2025v/>

フレッシュプリキュア！～ゲットマウスの逆襲！煌めきのプリキュア・キュア

2011年9月5日16時19分発行